

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 (支援センター部)

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

学校番号

105

自己評価

学校教育目標	・夢の実現に向け自ら学び考え、生き生きと表現できる児童生徒を育てる。 ・心のふれ合いを大切に、自他共に尊重できる児童生徒を育てる。
--------	--

評価する領域・分野	「校内支援」「校外支援」
現状及びアンケートの結果分析等	「県市町のサービス等社会資源が利用できるよう積極的に活動している」の肯定的回答が63%であり、「岐阜北部地域の特別支援教育のセンターとして機能している」が67%であった。情報発信・広報活動の弱さが課題であると考ええる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・「個別の教育支援計画」の策定と、外部機関との連携した支援を充実する。 ・センター的役割として、相談活動や親子教室を充実する。
重点目標を達成するための校内組織体制	・校内支援：各学部に支援センター部職員、各学部ケース会議担当者配置 ・校外支援：障がいの専門性に応じた職員の派遣に対応できる体制確保
目標の達成に必要な具体的な取組	・担当業務遂行時の各学部支援センター部担当者の共通理解、情報共有 ・周辺市町の就学指導委員会等の参加や、県市町関係機関や事業所との連携
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・状況に応じた校内ケース会議や支援会議の実施、該当者支援ができたか。 ・訪問支援や来校相談、電話相談等があったか。
取組状況・実践内容等	「校内支援」 ・「個別の教育支援計画」の作成、表記について、職員に共通理解を図った。また、教育的ニーズに合わせ、新転入生から活用できるよう改定した。 ・各学部の支援センター部職員が児童生徒についての困り感等の情報を掴み、要支援事項について各学部主事と連携した。必要に応じて、他分掌とも連携し、ケース会議や支援会議を実施した。 ・保護者を対象に生活サポート相談会を定期的に実施し、相談内容の状況によって、校内や県市町福祉課や福祉サービス事業所と連携した。 「校外支援」ー 地域支援センター ・次年度特別支援教育を必要とする年長児親子を対象とした親子教室を実施した。年間を通して、保護者のニーズに応じた内容を提供できた。 ・周辺小中高等学校職員や校外保護者への相談活動をした(来校、訪問、電話)。 ・担当職員で周辺市町の適正就学指導委員会や連携協議会等へ参加した。 ・外部団体の研修会に、講師やアドバイザー役として参加した。
評価の視点	評価
① 個別の教育支援計画について、職員や保護者に理解を得ることができたか。	A <u>B</u> C D
② 校内の相談活動やケース会議、支援会議を充実できたか。	A <u>B</u> C D
③ 岐阜北部地域における特別支援教育のセンター的役割を担えているか。	A <u>B</u> C D
成果・課題	総合評価
○放課後等サービス利用児童生徒の増加と共に、事業所との連携が深まってきた。 ○外部の相談支援や研修会講師等の依頼を受け、職員の派遣をすることができた。 ▲センター的役割の活動状況報告を地域や本校保護者に行っていない。	A <u>B</u> C D
来年度に向けての改善方策案	・放デイ利用児童生徒の安全な下校を、生活支援部・防災安全部と連携する。 ・掲示板の活用に加え、教務部と連携したHP、渉外部と連携した通信等での積極的な情報提供や活動報告を、本校保護者や地域に向けて行う。

学校関係者評価 (平成29年 1月19日実施)

意見・要望・評価等
・保護者が学級担任と懇談や相談をする時に、思いが十分に伝わらなかったことがあった。内容を複数の教員で確認・共有し、些細なことでも伝わるようにしていく。